会長就任にあたって



(財) 日本ハンドボール協会会長　渡邉佳英

私は三月下旬の臨時全国理事会で、はからずも財団法人日本ハンドボール協会の会長に選任されました。

現在、日本ハンドボール界を取り巻く環境は、大変厳しいものがあります。少子化や経済不況、個人の価値観の変化などにより、青少年のスポーツ人口の減少やスポーツ離れが進んでいます。この逆風に手をこまねいていてはいけません。協会関係者は、それぞれの分野で行動を起こしてください。関係者全員が粘り強く、力を合わせて逆風を順風に変える工夫と努力をしようではありませんか。

昔からスポーツ界を発展させるためには、頂上を高く、裾野を広くすることといわれています。頂上を高くとは、皆さん十分お分かりのように、オリンピックなど国際競技会でナショナルチームが活躍し、日本の人々に感動と夢を与えることであり、国際スポーツ界を見据えての競技力の向上を意味します。

ここ数年、日本のナショナルチームの成績は、芳しいものではありません。97年の男子世界選手権大会（熊本）で王者フランスをギリギリまで追いつめた善戦はあったものの、オリンピックは88年のソウル大会のあとは参加していません。女子は76年のモントリオール大会以降、途切れています。ことしは５ヶ月後の９月23日から神戸市でアテネ・オリンピックのアジア地区予選があります。情勢は厳しいですが、男女そろって予選を突破、本大会に駒を進めて順風を呼び込むきっかけにしてほしいのです。

地道な努力をしてハンドボールの普及を図れば、裾野は広がり、頂上が高くなります。また頂上が高くなれば、裾野も広がります。これはどっちが先というものではなく、車の両輪の関係にあると思います。

日本ハンドボール協会では、ハンドボール界の長期的な行動指針を「プロジェクト21」としてまとめました。この改革書の目標は、①2010年にハンドボール人口を日本で全スポーツ競技の３位に、そして小学校チームを育成する、②オリンピックに常時出場し、メダルを獲得できる実力をつける、③協会が人・物・金で自立できる体制にする、というものです。この三つの目標が実現できるシステムを05年に完成させる予定です。このような近・中・長期計画実現のため私も努力し、“協会百年の計”を確立したいと思っています。

これからスポーツの国際化の流れは、ますます進みます。私は国際ハンドボール連盟のアジア選出理事、アジアハンドボール連盟の第一副会長も兼務しておりますので、両連盟の交流や日本チームの海外での活躍の場をつくりたいと思っています。

■ 平成15・16年度役員人事決まる ■

名誉会長　米倉　功

会　　長　渡邉　佳英

専務理事　大西　武三

＊その他詳しい人事につきましては次号以降において掲載致します。

2003年度　国内・国際大会日程 ◇印 国際大会

	大　会　名		開　催　日　程	開催地	開　催　場　所
7月	第23回全国クラブ選手権・西		7/11（金ー諸会議のみ）〜7/13(日)	福岡県	大牟田市民体育館
◇	ジャパンカップ（仮称）		7/17(木)、7/19(土)〜7/20(日)	神奈川県・愛知県 他	横浜文化体育館・名古屋市中村スポーツセンターor枇杷島スポーツセンター・福井県立体育館
◇	第9回ヒロシマ国際大会		7/24(木)〜7/27(日)	広島県	東区スポーツセンター
	第11回全日本マスターズ大会		7/25（金ー諸会議・開会式）〜7/27(日)	宮崎県	宮崎県体育館・宮崎市総合体育館
	第23回全国クラブ選手権・東		7/25(金)〜7/27(日)	福島県	本宮町総合体育館・本宮高校体育館・本宮体育館
	高松宮記念杯第54回全日本高校選手権大会		7/29(火)〜8/3(日)	長崎県	佐世保市体育文化館・佐世保西高校・海上自衛隊平瀬体育館・同佐世保教育隊小佐々町スポーツセンター
	高松宮記念杯第44回全日本実業団選手権大会		7/30(水)〜8/3(日)	新潟県	柏崎市総合体育館・柿崎町総合体育館（“かきざきドーム”）
	NTS（ナショナルトレーニングシステム）ブロックトレーニング		7月〜8月	各ブロック	未定
8月	第16回全国小学生大会		8/1(金)〜8/3(日)	京都府	田辺中央体育館・同志社大学体育館
	第5回全日本ビーチハンドボール選手権大会		8/2(土)〜8/3(日)	千葉県	富浦町原岡海岸
◎◇	第14回世界女子ジュニア選手権		8/3(日)〜8/17(日)	マケドニア	
	第30回全国高等専門学校選手権大会		8/9(土)〜8/10(日)	熊本県	熊本県立総合体育館
	第8回ジャパンオープントーナメント		8/11(月)男・12(火)女〜8/14(木)	埼玉県	八潮市立鶴ヶ曽根体育館・同大原中学校体育館・三郷市総合体育館・吉川市総合体育館他
	東日本学生選手権大会	男　子	8/10(日)〜8/15(金)	福井県	北陸電力体育館他
		女　子	8/14(木)〜8/19(火)	東京都	東京女子体育大学体育館・駒沢屋内球技場他
	西日本学生選手権大会		8/15(金)〜8/20(水)	愛知県	未定
	チェリーカップ第11回東日本小学生大会		8/15(金)〜8/17(日)	山形県	東根市民体育館
	第32回全国中学校大会		8/17(日)〜8/20(水)	北海道	函館市民体育館・函館大学体育館
◎◇	第11回日韓中ジュニア交流競技大会		8/23(土)〜8/29(金)	韓国	済州島
	第7回日韓スポーツ交流（派遣／女子）		（未定）	未定	未定
	第7回日韓スポーツ交流（受入／女子）		（未定）	未定	未定
9月◎◇	2004年アテネオリンピックアジア予選神戸大会		9/23(火)〜9/30(火)	兵庫県	グリーンアリーナ神戸・神戸市立中央体育館
10月	第28回日本リーグ		10/7(火)〜04年3/7(日)	各地	
	第58回国民体育大会		10/26(日)〜10/30(木)	静岡県	静岡中央体育館・同北部体育館・市立高校体育館（以上成年男女）・静岡市清水総合運動場体育館他
11月	高松宮記念杯男子46回女子39回全日本学生選手権		11/4(火)〜11/9(日)	青森県	新青森県総合運動公園青い森アリーナ・野辺地町立体育館
12月	第55回全日本総合選手権大会・男子／女子		12/16(火)〜12/20(土)女・12/21(日)男	広島県	県総合体育館（“グリーンアリーナ”）・東区スポーツセンター・中区スポーツセンター 他
	第12回JOCジュニアオリンピックカップ		12/26(火)〜12/28(日)	大阪府	堺市家原大池体育館・金岡体育館
	NTS（ナショナルトレーニングシステム）センタートレーニング		12月〜1月	未定	
2月	全日本実業団チャレンジ2004		2/20(金)〜2/22(日)	三重県	アクティブランド体育館・ホンダ健保体育館
3月	第28回日本リーグプレーオフ		3/20（土・祝）〜3/22(月)	東京都	駒沢体育館
	第27回全国高校選抜大会		3/26(金)〜3/31(水)	神奈川県	神奈川県立体育センター・藤沢市秋葉台体育館・秩父宮体育館・茅ヶ崎市体育館・戸塚スポーツセンター

※◎印大会以外の全ての大会にサポート会「パスカード」、「ペアチケット」で観戦できます。

平成15年度事業計画

平成15年4月1日　(財) 日本ハンドボール協会

現在日本スポーツ界は大きな変革期を迎えている。日本ハンドボール協会もその渦中にあり、これを乗り切るべくプロジェクト21構造改革及び諸事業を展開していきます。

本年度は、オリンピックアジア予選の年です。3年前より大きなエネルギーで取り組んできたアテネ特別強化委員会を中心とした日本協会事業の総決算であり、この予選に勝ちぬくことが日本ハンドボール界が上昇機運に転じる最良となるため、あらゆる部門・関係者が総力をあげて結集し成功させなければなりません。

その一方で、少子化や若者のスポーツに対する考えの変化など様々な要因で、登録競技者が減少しています。地域における小学生を中心としたチームの育成など、都道府県協会と連携しながら普及システムを確立し実行していきます。さらに、近年の新たな事業である10万人会、ナショナルトレーニングシステム (NTS)、特別普及委員会などの更なる充実をはかり、普及･強化、財源の確保に繋げていきます。

また、財政については、経済不況、企業スポーツの撤退など、従来のような協賛金は最早期待できる状況ではありません。今後は、昨年度立ち上げたマーケティング委員会を中心として日本協会独自で事業を展開し、協会の目的を達成できる財政基盤を強固なものにしていきます。

1. 普及･指導に関する事業

・普及特別委員会

1. 少年チーム創設育成会議の設置
   - ・ブロック会議
   - ・少年チームの実態、創設の方法、指導者育成、ネットワークの構築
2. 公認指導者体系の整備
3. 普及施策の検討
   - ・U－15対策会議、U－15クラブ大会 (各ブロック毎)
   - ・運営マニュアル
   - ・異種目スポーツとの連繫事業

≪普及関係≫

【基本方針】

1. 生涯ハンドボール体系の確立
   ①小学生を中心としたジュニアチームの育成
   - ・市町村協会でのスポーツ教室、スポーツクラブの育成
   - ・郡市町村ハンドボール協会の設立促進

   ②小学校における教科体育ハンドボール授業の実践促進
   ③小･中･高の教科体育における一貫指導体系の確立
   ④マスターハンドボールの普及
   ⑤車椅子ハンドボール等の支援
2. 中学生委員会関係
   ①チーム登録の徹底
   ②指導者養成、チーム育成事業の充実
3. ビーチハンドボールの普及
   全国大会の開催

【重点施策】

1. 小学校教科ハンドボールの普及と次期指導要領改訂対策
   - ・実践研究発表会の充実
   - ・研究指定校の実施
   - ・発育発達に応じた指導マニュアルの作成
2. 小学生チームの運営研究
   - ・小学生委員会を中心としてスポーツ教室、クラブチーム経営運営マニュアル作成、広報
   - ・ブロック大会の充実
3. 中学生チームの普及と活性化
   - ・指導者の育成
   - ・中学校体育連盟との連携
   - ・NTSとの連携
4. 生涯ハンドボール体系への基盤整備
   - ・少年スポーツ教室･クラブの充実
   - ・U－15大会の実施
5. ビーチハンドボールの普及
   - ・講習会の開催、審判員の養成

≪指導関係≫

【基本方針】

1. 指導者の育成
   ①指導組織の整備
   ②公認指導者養成講習会の実施
   ③都道府県における公認J級指導員及びスポーツ指導員の養成
   ④コーチシンポジウムの開催
   ⑤大学におけるC級コーチ専門教科認定コースの設置について
2. 公認指導者の義務付けについて
   公認指導者研修会の開催
3. 海外派遣による研修と情報収集
4. 技術･指導情報の広報
5. NTSとの連携

【重点施策】

1. 公認J級指導員養成、スポーツ指導員養成講習会の実施
2. コーチシンポジウムの開催
3. 公認指導者組織の整備
4. NTSとの連携による指導者研修体系の確立・指導体系の確立
   - ・指導者研修会の開催

2. 競技運営に関する事業

【基本方針】

1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる
2. 大会運営、競技運営の組織化を具体化する
3. 大会システムの再編を図る
4. 登録システムの充実を図る
5. 競技用具検定制度の推進及び整備を図る

【重点施策】

1. アテネオリンピック アジア予選 兵庫／神戸の大会運営にあたる
2. 年令別大会の組織化を図る
3. 大会運営、競技運営の組織化を図るためにも競技役員の資質向上を目指し養成を図ると共に運営の普遍化を具体化する
4. 選手・チーム役員及び日本協会のデータ管理を統一させ、登録制度の推進を図る
5. 競技用具の検定制度の推進及び整備を図ると共に、大会における使用の徹底を図る

3. 国際に関する事業

【基本方針】

1. 世界大会（オリンピック、WC）出場に向け環境作り

アテネオリンピック アジア予選（兵庫 / 神戸）へのサポート

2. アジアハンドボール連盟（AHF）のさらなる正常化

3. 東アジアハンドボール連盟の設立

4. 国際交流の体制構築とネットワーク化

【重点施策】

1. AHF・IHFの重要ポイントに役員を送り込む

委員会も含め登録し、日本主導で進める

2. 東アジア地区の連携を密にする

・東アジア諸国の競技会の実施

・東アジア諸国の指導委員会・レフェリーのレベルアップのための研修会の実施

3. 海外拠点と国際交流のバックアップ

・派遣選手の送り出しのアシスト

・海外拠点国との調整

・海外駐在ハンドボール経験者の活用（情報収集）

・海外招聘国への調整

4. 国際ー総務・強化との連繋

4. 競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1. 審判員の資質の向上

日本のハンドボール技術の向上に対し、審判員の資質向上は不可欠であり、トップレフェリーを含め全体のレベルアップを図る。

さらに、コーチ及びプレーヤーとコミュニケーションを図ることにより、技術と反則の問題点を探り、高度の技術を目指す。

2. 競技規則運用の精度を高める

新競技規則採用2年目にあたり、規則運用面での問題点を吸い上げ、国内での規則研究と、国際連盟との連絡を密にし、ハンドボール競技規則の精神を汲み、国内外での大会運営に支障のない状態を作る。

3. 審判員の評価活動

研修会・講習会の成果また課題の把握、評価（審判技術）の継続

【重点施策】

1. 視聴覚教材の充実

VTR等による視聴覚を駆使し、教育用VTR及びテスト用VTRを作成し、審判員の資質向上の一助とする。

視聴覚器材の充実と、作成スタッフの充実を図る。また試合終了後、当該審判員と監督との意見交換の場を持つことの徹底を図る。

2. トップレフェリー研修会の充実

全国大会担当審判員、日本リーグ担当審判員及び技術指導者を一堂に集めた研修会を実施し、ここで技術と反則並びに審判技術両面の意見交換を行う。

3. 継続的行事の実施

公認A・B級審判審査、審判評価、JHAレフェリーコース、審判部合同会議等は、審判部運営上継続を避けられない。

5. 競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】

1. アテネ強化施策の推進

2. 中・長期（代表Pチーム）強化施策の推進

3. アテネオリンピック出場権の獲得（9月神戸市開催）

4. 分析チーム設立

5. メディカルサポートの実施

【重点施策】

1. アテネ強化の実施

・強化合宿の実施（連続合宿）

・国際試合の実施（7月ジャパンカップ、ヒロシマ国際）

・海外遠征合宿の実施

2. 中・長期強化の実施

・代表Pチームの強化（国内転戦合宿）

・女子ジュニア世界選手権大会出場（8月マケドニア）

・アジアの正常化（東アジアジュニア大会開催）

3. アテネオリンピックアジア予選

・アジアの代表権の獲得に協会の総力を結集（オリンピック出場権必達）

4. 分析チームを組織化

・アテネオリンピック予選に臨む代表チームのサポート

・アジア各国のスカウティング

・チーム力強化の情報提供

・技術の開発

5. メディカルサポートの充実を図る

・代表チームのトップコンディショニング

・アンチドーピング教育

・大会のドーピング検査の実施

6. 機関誌発行に関する事業

【基本方針】

平成15年度は、雑誌媒体である機関誌とIT媒体であるインターネットとの特性を踏まえ、内容を精選して掲載することとする。具体的には、発行を1・2月と6・7月を合併号とし、従来の年11回発行から10回の発行とする。内容としてはインターネットの速報性に鑑み、大会速報は掲載せず、記録のみとする。また各種委員会、連盟からの情報伝達を充実させ、日本協会の動きを詳細に伝える。

【重点施策】

1. ナショナルチーム情報

2. 協会便り

3. 各種委員会便り

4. 各連盟便り

5. NTS情報

6. IHFニュース

7. スコアルーム

8. 企画記事

9. その他

7. 企画・広報に関する事業

≪企画≫

【基本方針】

1. 中・長期スケジュールに基づく企画・立案

2. 協賛募集活動の定着と拡大

3. 『構造改革・プロジェクト21』の検討・推進

【重点施策】

1. アテネ特別強化委員会のプランに対する活動（アテネオリンピック アジア予選開催等）

2. マーケティング委員会の活動の推進（協賛募集活動の具体化）

3. 『構造改革・プロジェクト21』の具体的検討と実施

4. 協会運営の事業化を検討する

≪広報≫

【基本方針】

1. ハンドボール情報の発信の拡大（プレスリリース・HP等の拡大）

2. メディアとの交流拡大

3. 協会内体制の確立

4. ナショナルチームのPR

5. インターネットの充実拡大

6. 『がんばれハンドボール10万人会』の徹底

【重点施策】
1－1　発信媒体の拡大に伴う対応
イ）新聞
ロ）テレビ
（地上波・ＢＳ・他チャンネル）
ハ）雑誌
ニ）ＨＰ
1－2　発信内容への対応
イ）ニュース　ロ）文化
ハ）バラエティ　ニ）経済　ホ）地域
2.メディアとの定期懇談会の実施
イ）東京記者クラブ ハンドボール分科会との懇談
ロ）ＮＨＫとの懇談
ハ）意見交換の実施
3.協会内組織の確立（担当者の複数化、役割の明確化）
4.ナショナルチームの露出
イ）テレビ　ロ）HP　ハ）新聞
ニ）雑誌
5.ＨＰ情報の内容充実（機関誌委員会、インターネット委員会、スポーツイベント社との連携）（ナショナル情報）

≪インターネット≫

【基本方針】
〈日本協会より発信すべきハンドボールの情報（大会案内、試合結果、10万人会、各種案内等）を、インターネットを通じて、一般の愛好者へタイムリーに発信する。〉
・平成14年度は、協会独自のサーバーを立ち上げてからフルシーズン５年目となり、情報発信に対するユーザーの認知度等、前年に比較し効果が認められている反面、人材面の不足等から発信内容が固定化・縮小化される傾向にあり、新たな情報発信・円滑な運用のための体制作りを早急に検討する必要がある。
・平成15年度においては、インターネットを活用した情報提供の充実化を図ると共に、ホームページ作成作業の一部を委託化し作業の効率化、スピードアップを図る。

【重点施策】
（1）日本協会ホームページの充実
・試合結果等の情報発信のスピードアップ
・新たな情報発信方法の検討と試行（受動的発信から能動的発信へ）
・日本協会の広報活動としてのホームページ活用
（2）ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり
・より良いシステムの検討、人材の補強等
（3）情報発信のスピードアップ化の検討・実施（情報発信のスピードアップ化には、専任化 or 外注化が不可欠）

8.財務・会計に関する事業

【基本方針】
日本ハンドボール協会の各事業の円滑な推進は、健全で安定的な財政基盤のもとに運営されている。特に平成12年度からスタートしたアテネオリンピック特別委員会の財源については、日本リーグ加盟チームの特別支援、及び協賛各社の後援にて予算化する事が出来、近年まれなる大型の強化事業が図れた。しかし、この支援体制も昨年までの時限立法であり、今年度からは新たな支援体制を構築して行かなければならない。
今年度の運営については、引き続き効率的かつ健全な財政運営に努めていく。さらに、マーケテング委員会の積極的活動により、まず財源の安定的確保を推進し、肥大化した強化予算の整理と各事業部・事務局と連携を取りながら毎月の収支を的確に捉えていく。

【重点施策】
1.マーティング委員会との連携による長期・安定的財源確保のための新規スポンサーの獲得
2.新規事業の予算化と各事業の支出項目の見直し・整理
3.ｔｏｔｏ事業の支援による費用の有効活用

9.日本リーグに関する事業

【基本方針】
1.日本リーグを継続・発展する
①日本リーグ機構中期ビジョンを確立する
②地域と共に発展する日本リーグを目指す
③企業におけるチームの位置付けを明確にする
④アテネ特別強化委員会との連携、支援体制を確立する
⑤普及活動への連携・支援体制を確立する
⑥企業とのパートナーシップを図る

【重点施策】
1.日本リーグ機構中期ビジョンの検討を行う
2.女子リーグの今後のあり方を検討する
3.観客動員対策に取り組む
4.メディア対策に取り組む（記者クラブ、NHK、TVKテレビ、BS放送多チャンネルーチーム広報を徹底）
5.東京地区での試合開催
6.第３地域での試合開催
7.経費節減に取り組む（集中開催、リーグの短期化）
8.国際競技力アップに協力する（NTS活動への協力支援・積極参加）
9.新しいリーグの姿への挑戦
①日本リーグのシステム改革を検討する
②チーム・ゼネラルマネージャーの育成
③他の日本リーグとの連繋を図る
④東アジアリーグの検討
10.審判技術の向上に取り組む

10.総務に関する事業

【基本方針】
近年、日本ハンドボール協会の事業は社会情勢と、スポーツを取り巻く環境の変化にともない、多岐にわたる活動を余儀なくされている。当然、活動の執行部門である事務局には専門性・正確性・迅速性等が要求され現行の事務局のマンパワーからして、仕事量は増加の一途にある。
この現況から今年度は、業務の効率化を積極的に推進し、ムリ・ムダ・ムラをなくし、事務局員の多能化を推進していく。
さらに戦力の強化を図るため人材の効果的再配置と投資を検討する。また、事務局経費の削減については継続的に取り組み、諸会議の円滑な運営と会議のあり方についても再考していく。

【重点施策】
1.事務局員の多能化と４Ｓの徹底
2.事務局経費の継続的削減
3.諸会議の再検討

11.『がんばれハンドボール10万人会』サポート会に関する事業

【基本方針】
過去４年間の経過を踏まえ、会員カテゴリーの見直し、規約の見直し等を行う。

【重点施策】
ナショナルチームＯＢ・ＯＧへの入会活動を行う。

2003年度
(財)日本ハンドボール協会登録にあたっての注意

1. 登録用紙について

登録用紙は６種類、９種別用意されています。

(1)「一般Ｌ・一般Ａ」、「リージョナル」、「大学」、「高専・高校」、「中学生」、「小学生・スポーツ少年団」に区分されていますので、該当する種類の用紙で種別ごとに登録して下さい。小学生については競技人口把握のために行うものです。なお、小学生大会など全国大会に出場するためには、チームおよび個人の登録が必ず必要となります。ご面倒ですが、ご協力よろしくお願いいたします。

(2)種別の異なる登録用紙を使用して、他の種別の登録は出来ませんのでご注意下さい。また、年度内にチームの種別を変更することは出来ません。

(3)登録用紙は選手数が多い場合に裏面にも記載できます。但し、裏面を使用した場合は、「副」、「写」のコピーは両面コピーをして「正」と同様に１枚の用紙にして下さい。

(4)登録用紙は、日本協会ホームページ(URL http://www.handball.jp) から、ファイルをダウンロードして使用しても構いません。但し、「一太郎９」、「Word ９８」のみしか用意しておりませんので、対応できない場合は各都道府県協会より配布を受けて下さい。

2. 登録規程第２条にしたがって

チームおよび個人（チーム役員および選手）は日本協会に登録して下さい。登録を行わなければ日本協会、各都道府県協会、または各連盟が主催、共催する大会にチーム役員（部長、監督、コーチ、トレーナー、ドクター、マネージャー、主務）および選手として参加することは出来ません。また、チーム役員であっても選手として参加する場合は選手の登録もして下さい。虚偽の記載(誤記であっても)があれば、日本協会懲罰委員会にかけられますのでご注意下さい。

3. 種別について

(1)「一般Ｌ」について

日本リーグ加盟チームのことで、すべての大会に参加資格があります。

(2)「一般Ａ」について

日本リーグ以外のすべての大会に参加資格があります。

(3)「リージョナル」について

都道府県内での大会のみ参加資格があります。「リージョナル」種別のチームに登録した選手は、国民体育大会（予選を含む）に参加資格はありません。

(4)大学

全日本学生連盟に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の大学生は、「一般Ａ」または「リージョナル」登録となります。

(5)高専

全国高等専門学校体育協会ハンドボール競技専門部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高専学生は、「一般Ａ」または「リージョナル」登録となります。

(6)高校

全国高等学校体育連盟ハンドボール部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高校生は、「一般Ａ」または「リージョナル」登録となります。

4. 日本協会登録料

種　別	一般Ｌ	一般Ａ	リージョナル	大　学	高専・高校	中学生	小学・少年団
チーム	700,000 円	35,000 円	5,000 円	17,000 円	10,000 円	2,000 円	0
チーム役員@*	2,000 円	2,000 円	2,000 円	2,000 円** 学生 600 円***	2,000 円**	2,000 円**	2,000 円**
選手@*	1,500 円	1,300 円	600 円	600 円	0	0	0

*　登録締め切り後の個人（チーム役員及び選手）の追加登録料は、登録時と同額です。
**　同一学校の男・女両チームのチーム役員を兼任する場合は、登録料を１チーム分のみとする。
同学校の学生（生徒、児童）をチーム役員として登録する場合は、登録料を選手と同じにする。
***　同大学の学生が選手とチーム役員を兼任する場合は、１名分の登録料（６００円）のみでよい。

5．登録用紙作成数、提出先 および期限について

⑴各チームは登録用紙を必ず「正」１部、「副」２部、「写」１部の計４部（「副」、「写」は「正」のコピーでよい）作成して、「正」１部、「副」２部の計３部を所属の都道府県協会の指定する日までに提出して下さい。なお、「写」は控えとしてチームで保管して下さい。裏面を使用した場合は、「副」、「写」のコピーは両面コピーをして「正」と同様に１枚の用紙にして下さい。

⑵登録用紙をファイルで提出することを可能と致します。但し、直接の提出先（都道府県協会）が対応できない場合がありますので、所属の都道府県協会にお尋ね下さい。

6．学校単位における合同チーム登録について

所属する連盟が合同チーム編成を許可している場合は、合同チームでの登録を認めます。学校名の欄に「○○中学校＋□□中学校（合同）」と明記して下さい。

7．個人の登録チーム数について

⑴チーム役員は複数チームに登録できます。但し、登録料はそれぞれにかかります。特例として同一の学校（大学、高専、高校、中学、小学）において男子・女子両チームのチーム役員を兼任する場合は、登録料を１チーム分のみとします。

⑵選手登録は１人１チームのみとし、複数チームに登録（重複登録）できません。重複登録は登録規定により懲罰の対象となります。但し、国民体育大会、その他、特別の選抜チームの登録については別に定めます。

8．国体一時登録について

日本協会登録用紙で登録手続きをされたチームが１人以上補強して国民体育大会へ出場しようとする場合は、国体一時登録をする必要があります。但し、構成メンバーの年齢は、登録用紙の記載いかんに関わらずすべて「国民体育大会規定」の適用を受けるものとします。

9．登録証の発行について

⑴登録したすべてのチーム役員及び選手には、登録証を発行します。有効期間は当該年度末までです。紛失などで再発行する場合は、事務処理費として５００円のご負担をいただきます。

⑵登録証は日本協会に登録されたことを示す重要なものです。各種大会で登録証の提示を求めますので、試合の際は必ず登録証を持参して下さい。登録証の保管・所持には十分ご注意、ご配慮をお願いします。

※今年度より、リージョナルの選手にも登録番号がつきます。

10．チームの新規登録について

新設（新規）チームの場合は、登録締切以降でもその都度登録を受け付けます。但し、必ず各都道府県協会を経てお送り下さい。新設チームとは前年度に日本協会登録をしていないチームのことを言います。

11．チーム役員および 選手の追加（新規）登録について

チーム役員及び選手の追加登録は、その都度認められます。追加登録は大会申込期日までに、各都道府県協会を通じて完了されていなければなりません。所定の届け出用紙に必要事項を記入し、所定の追加登録料と共に、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。

12．選手の追加（移籍）登録について

⑴当該年度にチームに個人登録し、そのチームをやめ、他のチームで再び競技をしたい場合は、登録を一旦抹消し（１３項参照）、新チームで追加（移籍）登録をしなければなりません。

⑵追加（移籍）登録の１度目は、当該年度内のいつでもできます。一度追加（移籍）登録をした場合は、当該年度２番目の登録チームに３カ月間在籍しなければなりません。３カ月経過しなければ,2度目の追加(移籍)登録はできません。

⑶追加（移籍）登録をする場合は、所定の届け出用紙に必要事項を記入し、所定の追加登録料と共に、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。なお、追加（移籍）登録用紙には、前所属チーム責任者印及び本人印が必要です。

13．登録抹消について

所属チームをやめる場合は、登録抹消手続きをする必要があります。所定の届け出用紙に必要事項を記入して、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。なお、登録抹消用紙には、本人の承諾印が必要です。

14．登録用紙記入の際の注意事項について

登録用紙に記入する際は、下記事項に注意し正確に記入して下さい。なお、前年度の登録一覧表（但し、全項目は入っていない）を各チームに配布しますので、ご参照下さい。この説明書はすべての種別に共通に作成してありますので、登録用紙に見あたらない項目の説明もあります。その場合は読み飛ばして下さい。

⑴新規・継続、種別、男女別欄及び加入連盟は該当に○印を付けて下さい。

⑵所属都道府県の欄には、チームを登録する都道府県名を記入して下さい。

⑶登録役員数及び登録選手数欄には、登録する個人の合計数を記入して下さい。

⑷登録役員数欄の（内兼任　名）及び（内学生　名）には、該当する人数を記入して下さい。

(5)チームNo.、チーム名（学校名）は前年度に登録がある場合は同じNo.、名称にして下さい。チーム名を変更する場合は、別途「チーム名変更届（理由書）」（書式任意）を添付して下さい。

(6)代表者欄は、チームを代表される方（校長、部長、監督、指導者など）の氏名をお書き下さい。

(7)チーム（学校）所在地を記入して下さい。

(8)「大学」は、“大学承認印”を必ず用紙右上所定欄にうけて下さい。

(9)連絡先欄は、日本協会登録証や各種通信物が確実に届くところを正確に記入して下さい。担当者名、送付先団体名が必要な場合は、必ず記入して下さい。機関誌送付先が連絡先と異なる場合は、機関誌送付先も正確に記入して下さい。もし登録後に転居などで住所を変更される場合は、速やかに都道府県協会を通じ、日本協会に連絡をして下さい。

(10)各箇所のフリガナ欄には、必ずカタカナで記入して下さい。郵便番号（〒）は必ず新7桁番号を記入して下さい。住所欄への都道府県名記入は不要です。

(11)すべての種別のチーム役員、及び「一般L」、「一般A」、「大学」に登録した選手は、特にコンピュータ入力をし、登録No.で個人管理を行います。登録No.は生涯個人No.となります。前年度に発番がない場合、または、今年度、新規に登録するチーム役員及び選手は番号欄に（新）と記入して下さい。役職欄は部長、監督、コーチ、トレーナー、ドクター、マネージャー、主務がこれに該当します。但し、「役職名」はチーム状況把握のために行うもので、この「役職」で登録を規定するものではありません。従って、それぞれの大会規定に従い、役職名を変更することが出来ます。

＊「リージョナル」種別にも、2003年度より個人登録No.を発行します。

(12)「大学」、「高専・高校」、「中学生」、「小学生・スポーツ少年団」に登録するチーム役員の内、同一学校の男子・女子両チームのチーム役員を兼任する場合は、役職欄に“監督（兼）”のように役職名の後に“（兼）”と記入して下さい。また、登録料の免除を受ける側の登録用紙の現住所欄に、住所を記入せず“男子チームで支払い”のように記入して下さい。

(13)「大学」、「高専・高校」、「中学生」、「小学生・スポーツ少年団」に登録するチーム役員の内、同学校の学生、生徒、児童の場合は、番号に○をして下さい。

(14)「大学」に登録する学生チーム役員の内、選手と兼任する場合は、チーム役員欄に記入せず、選手欄の番号に○をし、番号左外欄外に「役職名」を記入して下さい。

(15)選手欄の通し番号は、ユニフォーム番号とは関係ありません。上から詰めて記入して下さい。

(16)過去に登録した個人が新規に登録をし、新たに登録No.を取得すると重複登録としてリストアップされます。重複登録は、登録規定により懲罰の対象となりますので、間違いのないようにご注意下さい。特に、種別が変わる（大学→一般Aなど）、移籍などは、前年度（過去）の個人No.を確認し記入して下さい。

(17)生年月日は西暦で記入して下さい。昭和の場合は年号に25を足せば西暦下2桁になります。

(18)「契／非」欄はIHF規定に基づく契約の有無についてです。該当を必ず○印で囲んで下さい。

(19)勤務先は出来るだけ詳細に記入して下さい。

例：○×（株）、●▼高校教員、◇◆大学□学部△年

(20)2002年度高知国体に出場された方（都道府県大会及びブロック大会を含む）は、「国体出場都道府県名」を記入し、国体（都道府県大会及びブロック大会を含む）に出場する際に、「国民体育大会規定」に抵触しないように十分ご注意下さい。

15. 連絡先、機関誌送付先変更について

連絡先、機関誌送付先変更の場合は、速やかに都道府県協会を通じ、日本協会に必ずご連絡下さい。なお、機関誌年度は、登録締切期限の関係から2003年7月～2004年6月（1・2月、6・7月は合併号、年10回発行）で、通常の年度と異なります。3、4月の転勤・転居などの際は特にご注意下さい。

16. ご不明の点について

ご不明の点は、所属の都道府県ハンドボール協会または㈶日本ハンドボール協会（〒150－8050　東京都渋谷区神南1－1－1　電話：03－3481－2361）へお問い合わせ下さい。



見ているだけでも楽しくなっちゃう!

こだわり商品勢揃いのインターネットショッピングサイト

http://www.toki-meki.com/

+@ スポーツ | +@ライフ | +@ ビューティ | +@ 家電 | +@ ギフト | +@ キャラクター | +@ ファッション | +@ サービス

◆◆◆◆◆◆◆ おすすめアイテム ◆◆◆◆◆◆◆

効率よく運動して、健康ボディになろう!



Be. Quarter (20個セット)

●商品番号：300-003

5,500円

ゼリー状の機能性飲料。運動を開始してから脂肪が燃焼されるまでに要する時間は約20分。Be.Quarterを運動開始15分前に飲むことでこの脂肪の燃焼開始時間を大幅に短縮できます。
スッキリとしたりんご味で1パック34kcal。



■商品番号一覧

	商品番号 ライト	商品番号 スタンダード	商品番号 ヘビー
22cm	300-004		
23cm	300-005		
24cm	300-006	300-010	
25cm	300-007	300-011	300-014
26cm	300-008	300-012	300-015
27cm	300-009	300-013	300-016

シェイプアップウエイトインソール

●ライト　2,680円
●スタンダード　2,950円
●ヘビー　3,130円　※商品番号は上記の表をご覧ください。

通勤時や散歩時に靴の中に入れておくだけ。基礎体力のアップなどあらゆるスポーツの基礎トレーニングとして効果的です。



アジャストダンベル5kg (1組)

●商品番号：300-017

14,300円

グリップ部分に柔らかいウレタンを使用。2~5kgで重さを調節できます。便利な専用収納ケース付き。



握力計

●商品番号：300-001

9,000円

測定範囲が0kg~100kgの握力計。男性向けタイプ。黒と白のコントラストが映える文字盤です。強力ポリカーボナイト樹脂製。



握力計 グリップA

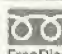
●商品番号：300-002

13,500円

測定範囲が0kg~100kgの握力計。計測針を強化プラスティックで保護しています。レッドとブルーの2色使いのデザイン。

表示価格には消費税・配送料は含みません。支払い方法など、詳しくはサイトをご覧下さい。

お申し込みは、下記要領で

お電話からは 

0120-215-621

受付時間：10:00~17:00(土日祝も営業しております)　住所:東京都中央区京橋2丁目8番18号昭和ビル3階

パソコンからは http://www.toki-meki.com/
ケータイからは http://mobile.toki-meki.com/

シーアンドエスグループは、日本ハンドボールチームを応援しています。

株式会社シーアンドエスは、サークルケイ・ジャパン株式会社と株式会社サンクスアンドアソシエイツの共同持株会社です。



シーアンドエス　サークルK　サンクス　ときめきドットコム

審判部通達

㈶日本ハンドボール協会
審判部長　斉藤　実
競技規則研究委員長　岸本光夫

通　　達

平成15年4月1日より実施いたします、「禁止事項」及び「許可事項」を別紙により通達致しますので、プレーヤー・トレーナー・レフェリー等、ハンドボール関係各位に周知徹底方お願い致します。

内　　容

「禁止事項」
＊ゴールキーパーが、帰陣する相手プレーヤーの進路に立ちはだかるオブストラクション行為は、違反とし段階的罰則を適用する。

「許可事項」
＊交代地域前でのドリンクボトルや松ヤニ・タオル等の受け渡しを許可する。
＊ハンドボールシューズであるならば、ポイントに関する規制を解除する。

「統一見解確認事項」
＊ステップの数え方に関する見解。

以上4項目を通達いたします。

解　　説

＊ゴールキーパーが、帰陣する相手プレーヤーの進路に立ちはだかるオブストラクション行為は、違反とし段階的罰則を適用する。

数年前より現れたこのプレーに対し、IHFの意見等も参考にしながら検討を重ねてきた。

現在の競技規則には、このプレーを違反とする条項はない。しかしながら、多くのハンドボールファンは、「非常に見苦しい」「爽やかさがない」という感想が圧倒的であった。

このことは、㈶日本ハンドボール協会が掲げている理念の一つである、「ハンドボール競技をより魅力のあるスポーツに育てていくこと」にそぐわないプレーと考える。

したがって、このプレーを競技規則8の4の「正当なスポーツマンシップの精神に反する身体的・言語的表現は、スポーツマンシップに反する行為とみなす」の対象とすることとし、段階的罰則を適用する。

＊交代地域前でのドリンクボトルや松ヤニ・タオル等の受け渡しを許可する。

平成7年の通達で、「交代地域前でのドリンクボトルや松ヤニ・タオル等の受け渡しは、スポーツマンシップに反する行為」として禁止してきた。

しかし、この行為そのものは、そこに違反行為がない限り違法性は感じられない。また国際的にもこの行為は常に行われていることである。さらに「パッシブプレーの予告合図」を契機にハンドボール競技はさらにスピーディなものとなり、これに伴ってプレーヤーの疲労度は高まってきている。こうした中でプレーヤーの身体的コンディションは最優先されなければならないし、プレーヤーがいちいち交代地域へ出てから水分補給した後再びコートに戻らせるというのは、プレーヤーには酷であると考える。したがって、この古い通達（一時期、内容を誤って通達したことをお詫びいたします）を廃止する。

ただし、この様な受け渡しに際して、①交代地域（センターラインの延長線からベンチの終端まで）の前で行うこと（違反すればスポーツマンシップに反する行為、または交代地域規程の違反）、②出場しているプレーヤーはサイドラインを踏み越えないこと（違反すれば不正交代）、③交代地域にいるプレーヤー・チーム役員はサイドラインを踏んだり、踏み越えたりしないこと（違反すれば不正入場）、④ドリンクボトルなどをコート内に投げ入れることによって競技に影響を与えないこと（違反すればスポーツマンシップに反する行為、または著しくスポーツマンシップに反する行為）、に注意しなければならない。

＊ハンドボールシューズであるならば、ポイントに関する規制を解除する。

過去、インターハイ・国体等グランドで大会が行われていた時代に、ポイントのあるシューズは、折角整備したコートを短時間でほじってしまうということから、高体連を中心に、ポイントは横から見えないものに限ると規制し、業者もそれに合わせて製造してきた。しかし、最近は殆どの大会が室内で行われるように

なってきたこと、利用者の声が、よりストップ効果の大きいシューズを求めていること等から、業者は従来のシューズの製造を中止することになった。業者への課題として、ポイントが横から見えるものと見えないものとのグランドへのダメージを調査することを提案した。その結果報告は、大きな差異が見られないとのことであり、高体連の了承も得て、従来の規制を解除することとした。

但し、あくまでもハンドボールシューズとして販売されているものに限られることはいうまでもない。ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール・ゴルフシューズ等は使用できない。また、業者にはポイントの高さは、6.5mm以下であることと申し入れてある。

＊ステップの数え方に関する見解

（平成15年3月1日付けの第2報を掲載）

【用語についての注意】

今回IHF／PRCが出したステップの数え方に関する統一見解において、最も注意しなければならないことは、他のプレーヤー（味方のプレーヤーや相手チームのプレーヤー）が投げたボールを「受け取る」場合と、自分自身でドリブルをしたボールを「つかむ」場合とを明確に区別している点である。これまで、ボールをキャッチする、あるいはボールに触れるという言葉も用いられてきているが、本稿では今回の統一見解の意図を正確に伝えるために「ボールを受け取る」と「ボールをつかむ」という用語を区別して説明する。

【ステップの数え方に関する統一見解が出された背景】

ドイツのハンドボールレフェリー専門誌Schiedsrichterの中で、Hans Thomas（ドイツハンドボール協会の審判員教育部門）とManfred Prause（IHF／PRC）は次のように述べている。

> 世界各国のトレーナーやレフェリーたちのステップの数え方は曖昧である。特にドリブルをした後のステップの数え方は問題であり、2通りの解釈が実在している。事実、ドイツ国内ですら、ブンデスリガのレフェリー、個々のブンデスリガ・トレーナー諸氏、個々の国内トレーナー諸氏の間で解釈が統一されていない。これは、アンケートの回答を見れば一目瞭然である。2通りの解釈とは、①自分自身でドリブルし、空中でそのボールをつかんで着地した場合、その足を第0歩とする（まだステップを使っていない）、②自分自身でドリブルをし、ジャンプして空中でそのボールをつかんで着地した場合、その足を第1歩とする（もう既に1歩使っている）、というものである。ステップの正しい数え方は②であり、①の解釈は誤っている。ステップの数え方を統一するために、トレーナー・レフェリー諸氏は議論を続けていかなければならない。

日本における従来の解釈は①に相当するものだったため、②に改めることになった。世界的規模での統一が呼びかけられたため、皆様方のご理解とご協力を賜りたい。念のために申し添えておくが、解釈が変更されるのは自分自身でドリブルしたボールを空中でつかむ場合のステップの数え方である。他のプレーヤー（味方のプレーヤーや相手チームのプレーヤー）が投げたボールを受け取る場合のステップの数え方は、従来の解釈と同じである。

【ステップの数え方 —— 解釈】

IHF／PRCより送付されてきた映像研修資料（各事例について具体的に説明されているが、ステップに関する解釈については言葉で呈示されていない）、ならびにIHF／PRCのKjartan K. Steinbach委員長への質問に対する返答の内容を合わせると、次のような解釈が成り立つ。

★他のプレーヤー（味方のプレーヤーや相手チームのプレーヤー）が投げたボールを受け取る場合
- 床に足をつけている状態でボールを受け取り（第0歩）、次のステップを使ったとき（第1歩）
- 空中でボールを受け取ってから着地し（第0歩）、次のステップを使ったとき（第1歩）

★自分自身で床にはずませた（ドリブルをした）ボー

ルを、足を移動させた後につかむ場合←要注意

・床に足をつけている状態でボールをつかみ（第１歩）、次のステップを使ったとき（第２歩）

・空中でボールをつかんでから着地し（第１歩）、次のステップを使ったとき（第２歩）

ＩＨＦ／ＰＲＣより送付されてきた映像研修資料（日本語版を頒布中）を参照されたい。

【ステップの数え方 ―― 例】

次に例を示す。ただし、以下の「足を他の場所に移動する」とは、「片足を他の場所に移動させた後に、他方の足を引きずり寄せる」場合（7:3の注）を除く。

★他のプレーヤー（味方のプレーヤーや相手チームのプレーヤー）が投げたボールを受け取る場合

1　両足が床についている状態でボールを受け取る（第０歩）→左足を他の場所に移動させる（第１歩）→右足を他の場所に移動させる（第２歩）→左足を他の場所に移動させる（第３歩）

2　右足が床についている状態でボールを受け取る（第０歩）→左足を床につける（第１歩）→その左足でジャンプして両足同時に着地する（第２歩）→左足を他の場所に移動させる（第３歩）

3　ジャンプして空中でボールを受け取る→左足で着地する（第０歩）→その左足でジャンプして両足同時に着地する（第１歩）→右足を他の場所に移動させる（第２歩）→左足を他の場所に移動させる（第３歩）

4　ジャンプして空中でボールを受け取る→両足同時に着地する（第0歩）→左足を他の場所に移動させる（第1歩）→右足を他の場所に移動させる（第2歩）→左足を他の場所に移動させる（第３歩）

★自分自身で床にはずませた（ドリブルをした）ボールをつかむ場合

1　ボールを床にはずませている間に前に進む→両足が床についている状態でボールをつかむ（第１歩）→左足を他の場所に移動させる（第２歩）→右足を他の場所に移動させる（第３歩）

2　ドリブルをしながら移動する→右足が床についている状態でボールをつかむ（第１歩）→左足を床につける（第２歩）→その左足でジャンプして両足同時に着地する（第３歩）

3　ボールを床にはずませている間に前に進む→ジャンプして空中でボールをつかむ→左足で着地する（第１歩）→その左足でジャンプして両足同時に着地する（第２歩）→右足を他の場所に移動させる（第３歩）

4　ドリブルをしながら移動する→ジャンプして空中でボールをつかむ→両足同時に着地する（第１歩）→左足を他の場所に移動させる（第２歩）→右足を他の場所に移動させる（第３歩）

5　両足が床についている状態で、他のプレーヤーが投げたボールを受け取る（第０歩）→足を動かさずにボールを床にはずませる（第０歩のまま）→足を動かさずにボールをつかむ（第０歩のまま）→左足を他の場所に移動させる（第１歩←上記４との違いに要注意）

【競技規則条項における解釈について】

7：3に述べられている内容は、他のプレーヤー（味方のプレーヤーや相手チームのプレーヤー）が投げたボールを受け取る場合のステップの数え方である。一方、自分自身でドリブルをしたボールをつかむ、あるいは床に一度はずませたボールをつかむ場合のステップの数え方（7：4の８行目に記載されている「3歩」の数え方）は、7：3に述べられている内容と異なる。この数え方に相違が生じる理由として、次の叙述がヒントになるかもしれない。

「第０歩とは、ボールと手が最初に接触した状態にあるときに、床に最初に接触した足（ステップ）のことを指す」と定義される。したがって、すでにドリブルをした後では、もはや最初の接触と言えない。また、ドリブルは特殊なプレースタイルである。

(Hans Thomas と Manfred Prause による)

（以下、次号に続く）



「若い力育成の重要性」

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

いよいよアテネ・オリンピックへの足音が高く聞こえてきた。“悲願達成”はなんとしても果たさなければならないのは言わずもがなである。

予選イヤーとなった2003年、全日本男子は年明け早々にフランスに遠征、フランス、ドイツなど世界の強豪へ戦いを挑んできた。成果と課題はともかく、代表選手にはこれからが最も重要な時期であろう。

個々の自覚はその中でも大切な要素である。強化合宿、遠征はもちろんだが、それぞれの所属チームに帰った時をどのように意義深いものにするかが大きなポイントであるのではなかろうか。

フィジカル面をはじめメンタリティーの強化は日ごろの姿勢が欠かせない。監督やコーチらスタッフの要求に従っているだけでは限界がある。

それぞれが進んで積極的に取り組む姿勢を貫くことである。とくにアテネ五輪予選が目前に迫ってくるこれからの時期は、そうした意識が大切であることは明白であろう。

こうしたモチベーションが苦しい時に踏ん張れる貴重な要素だし、高く立ちはだかる壁を乗り越えられるはずである。これこそが自分へのチャレンジと言えるのではないかと思うし、コートで爆発できるパワーと自信を植え付けると言っていいのではないだろうか。ファンに感動を呼ぶプレーが身についてもくるのだろう。

それは次の全日本を背負って立つ世代にも引き継がれる。新春を挟んで行われたU―19、U―16、U―12などのＮＴＳ（ナショナルトレーニングシステム）センタートレーニング参加者にも、絶好のお手本となるのは間違いない。

なかでも小・中学生年代への影響は大きい。以前にも触れたことがあるが、代表選手の行動に対して子どもたちは敏感である。一挙手一投足のすべてを見ているし、彼らはそうした行動を「モデル」としてとらえるのだ。

試合前後の彼らへの接触態度もそうだし、コートでのプレーもそうだ。とにかく、すべてにわたって「モデル」なのだ。

「さすが全日本の選手はすばらしいな」を印象づけることは、将来の有能な金の卵を育成する際の重要なキーワードとなるのである。

ひた向きに精進する姿を目の前にした時の若い力は、またそうした努力を惜しまないプレーヤーに成長することになるはずだ。自分だけでなく、常に“監視”されているナショナルプレーヤーの責任は、それほど大きいと思う。

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2003

Aグループは大阪ガス
Bグループはデンソーファドレスが昨年に続き優勝

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2003は、２月14日㈮から16日㈰までの３日間、Ａグループは京都府八幡浜市民体育館、Ｂグループは同じく八幡浜市民体育館と田辺市中央体育館で開催されました。Ａグループは３チームによるリーグ戦で大阪ガスが、Ｂグループは14チームによるトーナメント戦でデンソーファドレスが、共に昨年に続き優勝を飾りました。

試合結果は以下の通りです。

Aグループ　　優勝・大阪ガス

順位		大阪	八光	豊田	試合数	勝ち点	勝	負	総得点	総失点	得失点差
1位	大　阪　ガ　ス		28○14	29○24	2	6	2	0	57	38	＋19
2位	八光自動車工業	14●28		25○22	2	3	1	1	39	50	－11
3位	豊　田　合　成	24●29	22●25		2	0	0	1	46	54	－８

Bグループ

金　沢　市　役　所（石 川 県）　28
新日鐵名古屋（愛 知 県）　19
17
新日本石油根岸（神奈川県）　21
28
マ　ツ　ダ（広 島 県）　36
12
日本原子力研究所（茨 城 県）　7
18
21
プラザー工業男子（愛 知 県）　14
22
自　衛　隊　久　里　浜（神奈川県）　29
豊　田　自　動　織　機（愛 知 県）　21
17
北　電　エ　コ　ま　る（福 井 県）　14
13
セントラル自動車（神奈川県）　19
14
日　本　耐　酸　壜（岐 阜 県）　13
30
三　洋　電　機（岐 阜 県）　12
19
常　陽　銀　行（茨 城 県）　25
21
デンソーファドレス（愛 知 県）　27

優勝
デンソーファドレス

3位決定戦

自衛隊久里浜（神奈川県）　17
豊田自動織機（愛 知 県）　16

3位
自衛隊久里浜

敗者復活戦

新　日　鐵　名　古　屋（愛 知 県）　11
19
日本原子力研究所（茨 城 県）　16
25
プラザー工業男子（愛 知 県）　22
北　電　エ　コ　ま　る（福 井 県）　19
22
日　本　耐　酸　壜（岐 阜 県）　20
24
三　洋　電　機（岐 阜 県）　18

日　本　耐　酸　壜

第15回女子世界選手権大会（イタリア）の戦術分析（WHMから）

試合のダイナミックさの明らかな増加(1)

笹　倉　清　則（指導委員会委員長、日本女子体育大学）
岡　本　　大（指導委員会協力委員、国士舘大学）

国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の機関誌は年４回発行されています。その中には国際情報、各大陸の情報、国際的なスーパースターの情報、トピックスとともに戦術分析なども掲載されています。今月号では、前回女子世界選手権大会（イタリア）の分析を指導委員会の協力により掲載いたします。

★総　論★

北イタリアの４都市で開催されたこの世界選手権では、４大陸の24チーム（ヨーロッパ15チーム、アフリカ・アジア・全米からそれぞれ３チーム）が80試合を戦った。グループＤにおいてだけ、差のある試合がいくつかあったが、ほとんどのチームが同等のレベルであった。

準々決勝からはヨーロッパのチーム同士の戦いになったが、アンゴラ、中国、韓国チームのパフォーマンスも評価できるものであった。アンゴラはヨーロッパチャンピオンのハンガリーに対し、わずか１点の差で惜敗し、スペイン戦も１点差で落とした(前半リード)。ルーマニアには勝利し、スウェーデンに対しても健闘した。

中国はヨーロッパの準チャンピオンのウクライナ、オランダ、マケドニアに前半リードから勝利し、ベスト８をかけた試合でハンガリーにわずか１点差で敗れた。韓国はトップチームに対し、どの試合も40分以上もの間大変良いプレーを行ったが、１試合を通してパフォーマンスの安定を維持できなかった。

ルールの変更とチームのフットワーク力の向上が、シュート数やゴール数といった攻撃活動の増加に代表されるような、試合のダイナミックさを増加させている。1999年ノルウェー大会での平均スコアは、26.9：21.4であった。それが今大会での平均スコアは29.2：26.1とアップし、１試合でのゴール数が全体で７ゴール増加したことを意味し、また特にトップチーム間での試合が均衡したものになった要因を表している。

★プレーヤーの分析★

いくつかの統計を見てみよう。表１は上位８チームのプレーヤーの特徴を表したものである。ロシア、ノルウェー、デンマークはすでに世代交代を始めているにもかかわらず、トップに位置している。このことは試合経験により、結果が支配されている男子の試合とは矛盾している。これは、女子において、ジュニアからの移行が簡単のようであること、またプレーヤーの年齢の幅がかなり狭いということ意味している。これらのことは、Tchaoussowa（ロシア）やディフェンスのスペシャリストとしてのKindl（ハンガリー）あるいはFlognman（スウェーデン）といったジュニアのプレーヤーたちが、もうすでに重要な役割を果たしているという、普通男子ではありえない例により支持される。

一方、この３チームは将来においてさらに優れたチームになるかもしれない。なぜなら他の５チームは、キープレ

表1　プレーヤーの特徴

チーム	選手数	平均年齢	身長（cm）						平均体重(kg)	国際試合経験数
			169以下	179以下	180以上	最　低	最　高	平　均		
ロシア	16	24.9	2	6	8	164	189	179.2	69.5	45.3
ノルウェー	15	24.2	2	9	4	166	183	176.9	70.7	62.2
ユーゴスラビア	16	26.6	－	11	5	172	184	177.6	71.6	35.1
デンマーク	16	24.6	4	8	4	165	185	174.6	67.8	50.1
フランス	15	26.0	3	10	2	163	182	173.4	66.9	81.1
ハンガリー	16	27.0	2	9	5	165	186	176.6	68.2	72.4
オーストリア	15	25.4	5	5	5	161	187	173.7	65.7	80.9
スウェーデン	15	26.4	2	11	2	168	181	174.8	71.3	67.1
合計	124名	25.6歳	20名	69名	35名	161cm	189cm	175.9cm	69.0kg	61.4試合

ーヤーが育つ時間を考慮に入れると、いくらかの遅れをとりそうだからである。

身長の点からみると、ほとんどのチームが非常に身長の高いプレーヤーをそろえてきた。ロシアチームは8名のプレーヤーが、180cm以上で傑出していた。大変身長の低いプレーヤーは明らかなことだが、横方向の動きで成功できる並外れた運動能力を持っていなければならない。

おもしろいことに、ユーゴスラビアもオーストリアも左投げの右サイドプレーヤーではなかった。しかし、両チームとも右投げの右サイドプレーヤーは、キープレーヤーの1人であった。

表2はシュートゾーンと状況ごとに、各チームのシュート成功率を表したものである。

表3は同じくシュートゾーンと状況により、各チームの得点の割合を表したものである。

表2 各チームのシュート成功率

チーム	シュート数／得点数						合計
	サイドシュート	ポストシュート	フィールドシュート	カットイン	速攻	7mシュート	
ロシア	60−33 55.0%	122−85 69.7%	155−70 44.0%	14−10 71.4%	33−22 66.7%	45−32 71.1%	433−252 58.2%
ノルウェー	65−40 60.5%	80−61 76.3%	169−80 47.3%	38−27 71.1%	53−47 88.7%	43−37 86.0%	448−292 65.2%
ユーゴスラビア	87−45 53.6%	95−59 69.4%	110−41 50.7%	49−35 82.4%	40−32 80.8%	46−37 86.5%	427−249 62.5%
デンマーク	95−47 49.5%	89−61 68.5%	192−77 40.1%	20−16 80.0%	31−24 77.4%	41−33 80.5%	468−258 55.1%
フランス	45−22 48.9%	96−57 59.4%	200−91 45.5%	7−6 85.7%	58−46 79.3%	28−24 85.7%	434−246 56.7%
ハンガリー	69−34 49.3%	95−63 66.3%	197−85 43.1%	16−14 87.5%	48−31 64.6%	34−28 82.4%	459−255 55.6%
オーストリア	76−40 52.6%	99−74 74.4%	213−79 37.1%	19−18 94.7%	32−24 75.0%	43−29 67.4%	482−264 54.8%
スウェーデン	55−31 56.4%	122−69 56.6%	168−70 41.7%	5−2 40.0%	42−25 57.1%	37−31 83.8%	429−228 53.1%
合計	534−284 53.2%	824−554 67.2%	1503−656 43.6%	136−107 78.7%	349−261 74.8%	308−246 79.9%	3654−2108 57.7%

表3 地域と状況における得点の割合

チーム	総得点	シュートの地域と状況					
		サイドシュート	ポストシュート	フィールドシュート	カットイン	速攻	7mシュート
ロシア	252	13.1%	33.7%	27.8%	4.0%	8.7%	12.7%
ノルウェー	292	13.7%	20.9%	27.4%	9.2%	16.0%	12.7%
ユーゴスラビア	313	11.8%	26.9%	33.2%	4.5%	13.4%	10.2%
デンマーク	258	18.2%	23.6%	29.9%	6.2%	9.3%	12.8%
フランス	246	8.9%	23.2%	37.0%	2.4%	18.7%	9.8%
ハンガリー	255	13.3%	24.7%	33.3%	5.5%	12.2%	11.0%
オーストリア	264	15.2%	28.0%	29.9%	6.8%	9.1%	11.0%
スウェーデン	228	13.6%	30.3%	30.7%	0.9%	10.9%	13.6%
合計	2108	13.5%	26.3%	31.1%	5.0%	12.4%	11.7%

★ ゲーム分析 ★

トップ3チームは強い戦術的統制を証明する高いシュート成功率であった。例えば、シュートは確実に得点できる状況の時のみなされた。

サイドのポジションからの得点の割合は、大変失望するものであった。したがって私たちは、優れたサイドプレーヤーが不足していることを述べなければならない。北欧の

チームは、それぞれ過去のチームと比較して、今のところ明らかに問題を抱えている。

悪い面での意外なことは、さらに詳細な解説が必要だが、速攻からの得点の割合が低かったことである。これは第一に、多くのチームが１次速攻だけしか使わず、守備から攻撃の際の選手交代のため、２次速攻まで継続して展開していかなかったこと。このことについては後ほど言及する。第二には、４チームだけが速攻を継続して展開し、そのうちデンマークとスウェーデンはひどい得点率であり、ノルウェーとフランスだけが満足のいくものであったこと。第三に、多くの状況で相手の１次速攻を無効にできる、質の高い戻りの走りにより、相手の速攻に対するディフェンス力が非常に向上したこと。そしてオフェンスチームによる速攻を展開していかないという方向性のため、現在の男子のハンドボールと比較して、速攻による得点割合が大変低くなった。

おそらくこれは、現在の女子ハンドボールにおける最も明らかな欠陥である。

★シュート確率と攻撃成功確率★

いくつかのセットプレーが示されている。ノルウェーはポストとサイドからのシュート成功率が極めて高かった。ユーゴスラビアは、チームとしてはかなり珍しく遠距離からのシュートと７ｍスローからのシュートにおいて高い成功率であり、非常に優れたシュート技術を示した。

何人かのプレーヤーは大変高いシュート成功率を残した。Eriksson（スウェーデン）、Rokne（ノルウェー）、Morskova（スペイン）は、遠距離からのシュートの成功率が57％を記録した。Bodnieva（ロシア）はポストシュートの成功率が80％であった。Morskovaが７ｍスローを失敗したのは、27本中わずか１本だけで96％以上の成功率であった。それに対応してゴールキーパーに関しては、多くのチームのキーパーが際立ったパフォーマンスを発揮したにもかかわらず、シュート阻止率は40％以下に低下した。Leganger（ノルウェー）はトップの阻止率で43％であった。しかしこの数値は、キーパーが直接シュートを阻止したものだけで、キーパーの防御活動により、枠外やゴールポストに外れたシュートは数に入れていないことを考慮しなければならない。したがってゴールキーパーのパフォーマンスは、実際はこの数値よりも良いものであると考えられなければならない。

シュートゾーンと成功率の点からみると、チームによって驚くべき違いがみられた。

デンマークはチームの約束に従って、サイドのポジションからたくさんのシュートをしたが、低い成功率に苦しんだ。将来的には、この問題に関してはかなりの向上が期待できる。

ロシア、ユーゴスラビア、スウェーデンは、チームの試合方針に従ってゴールエリアライン付近から多くのシュートをしていた。もっともスウェーデンは成功率を上げなければならないといえるが。ロシアとユーゴスラビアは、カットインと速攻から多くのシュートをしていたノルウェーと並んで、シュートの配分が最もバランスのとれたチームであった。オーストリアのロングシュートの成功率は大変低かった。ハンガリーとスウェーデンの速攻のシュート成功率は、チームの質のレベルに見合うものではなかった。

ゴールエリアライン付近からの大変多くのシュート数については、後でディフェンスのパフォーマンスを論じる時に述べる。

（以下次号に続く）

第14回海外遠征（ドイツ）を終えて

埼玉県高体連強化委員長　松　浦　則　夫（伊奈学園総合高等学校）

去る平成14年12月25日から平成15年１月１日の８日間をかけて埼玉県ハンドボール協会主催でドイツ遠征を行ってきました。

メンバーは、少年男子16名（高２年13名、高１年３名）、少年女子16名（高２年10名、高１年６名）役員13名の総勢45名でドイツのベルリン市において市内のクラブチームと男女各２試合行いました。

結果は、

男子：埼玉　23－26　ＨＶＢ
　　　埼玉　30－20　ベルリン市選抜
女子：埼玉　24－34　ＨＶＢ
　　　埼玉　28－24　ベルリン市選抜

※HVB：HANDBALL-VERBAND BERLINe.V

男女とも１勝１敗でした。

この事業は埼玉県ハンドボールの強化活動の一貫として平成２年に第１回台湾遠征が遠藤健治副会長、上久保重次理事長両氏のご尽力により企画され、以後第２、３、７、９回台湾（台北、台中）、第４回中国（上海）、第５回ドイツ（ベルリン他）、第６回韓国（ソウル他）、第８、10、11、12回スイス（チューリッヒ）と続けられ、途中第13回スイスが同時多発テロの影響で中止がありましたが、今回で14回を数えることとなりました。

主目的である埼玉県ハンドボールの技術向上、強化、指導者の資質向上の成果はもちろん、他国の人々との交流や文化に触れることにより、国際色豊かな人間性の育成という面においても大変有意義なものになっています。

平成14年度ドイツ連邦共和国親善事業派遣選手団

役員団

役職	氏名	協会役職	勤務先
団長	遠藤健次	埼玉県ハンドボール協会副会長	自営
副団長	上久保重次	埼玉県ハンドボール協会理事長	県立伊奈学園総合高等学校
総務	斉藤政寛	埼玉県ハンドボール協会幹事	県立春日部工業高等学校
総務	松浦則夫	埼玉県ハンドボール協会強化対策委員長	県立伊奈学園総合高等学校
総務	牧田実	埼玉県ハンドボール協会競技委員	県立越谷西高等学校
経理	土屋雅男	埼玉県ハンドボール協会経理委員長	県立岩槻北稜高等学校
男子監督	岩本明	埼玉県ハンドボール協会強化対策委員	浦和学院高等学校
コーチ	斉藤良昭	〃	春日部市立春日部中学校
コーチ	錦引智	〃	県立川口東高等学校
コーチ	細津誠	〃	春日部市立大増中学校
女子監督	山田克彦	〃	浦和実業学園高等学校
コーチ	伊藤治也	埼玉県ハンドボール協会指導普及委員長	市立浦和高等学校
コーチ	石山準一	埼玉県ハンドボール協会総務委員	県立越谷南高等学校

選手団

〈男子〉

氏名	学校名	学年
小門祐己	浦和学院高	２年
小澤広太	〃	〃
林大祐	〃	〃
斎藤雄紀	〃	〃
坂川拓也	〃	〃
鴻田真	〃	〃
篠田巧	〃	１年
吉野泰雅	〃	〃
小西潤	川口東高	〃
中原弘人	市立浦和高	２年
永田真也	〃	〃
高橋一弥	〃	〃
工藤隆則	浦和実業高	〃
松島由幸	川口北高	〃
丸山貴弘	越谷西高	〃
清水岳志	伊奈学園高	〃

〈女子〉

氏名	学校名	学年
堀口梓	熊谷女子高	２年
黒須希	市立浦和高	〃
山崎友加	〃	〃
鈴木奈々美	越谷南高	〃
秋元麻諒	〃	１年
川田有里子	浦和実業高	２年
武藤彩夏	〃	〃
佐藤菜美	〃	１年
倉持絵里	〃	〃
村山絵理奈	〃	〃
新井陽子	〃	〃
樋口香織	〃	２年
渡部みゆき	〃	１年
本橋樹	〃	２年
永田真弓	〃	〃
吉田亜矢	〃	〃

役員13名　男子選手16名　女子選手16名　計46名

貴重な体験

男子主将　小澤広太（浦和学院高校）

私達選抜チームは８日間のドイツ遠征に行った。現地では練習を見学したり、試合を行ったのだが、体格の良い選手達を前にし、粘り強いディフェンスからのスピードある我々の攻撃が通用したことは１つの収穫となった。この経験を活かし、秋の国体に向け一歩でも上を目指し、練習に励んでいこうと思う。最後に美しく歴史あるドイツでのこのような貴重な体験をさせて下さった先生方、両親に感謝している。



ドイツ遠征を通じて

女子主将　樋口香織（浦和実業学園高校）

今回、ドイツに行き、ハンドボールを通していろいろな事を感じ、また学ぶことが出来ました。ドイツのチームは、背も高く、スピードやパワーを感じました。また、ドイツの文化や生活に触れることで日本との差を感じながらも楽しく過ごすことが出来ました。こういった良い経験が出来たのも、両親や周囲の方々のお陰だと思います。感謝の気持ちを忘れず、ドイツで学んできたことが、これからの自分達に生かされるように頑張っていきたいと思います。



実践研究推進校
募集要項　改訂版

小学校体育科授業におけるハンドボール教材の展開について

1．趣旨

小学校における教材としてのハンドボールの課題について、総合的に実践研究を行ない体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2．研究実践内容

(1)実践研究のテーマは次のとおりとする。
- ア　課題解決型の学習(めあて学習)の充実とその進め方。
- イ　児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。
- ウ　「体ほぐしの運動」の内容と方法
- エ　運動部活動の充実と運営の在り方
- オ　その他

(2)推進校は、「ボール運動」、もしくは「ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、実践研究を進めることとする。

なお、上記のテーマのうち、例えばイとウなどは、一体的に実践研究することもできるものであり、一体的に行なう場合は、一つのテーマでまとめて実践研究することができることとする。

3．研究実践期間

おおむね２年間とする。

4．対象推進校

各都道府県協会から推薦された小学校の中から20校程度選定する。選定は（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会で行う。

5．推進校の運営

(1)推進校は、校内における研究体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に実践研究を推進する。

(2)推進校は、(財) 日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に実践研究を推進すること。

(3)推進校は、第１年次には実践研究の中間報告書を、また、実践研究期間の終了時には、研究成果報告書を、それぞれ日本協会の指定する様式にしたがって、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

(4)日本協会は、必要に応じて推進校および都道府県協会と連絡をとり、実践研究の推進について意見および情報の交換を行なう。

6．経費

日本協会は、研究委託費として予算の範囲内で支出委任する。

7．その他

日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8．応募の締切

平成15年５月31日（土）

9．申込、および問合せ先

応募の際には以下にお問い合わせ下さい。

(財) 日本ハンドボール協会
学校体育ハンドボール検討委員会（代表：佐藤　靖）
〒010−8502
秋田市手形学園町１－１　秋田大学教育文化学部
スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室
TEL ／ FAX：018−889−2577

※３月号掲載の電話番号は間違いでした。上記が正しい電話番号です。お詫びして訂正いたします。

財団法人日本ハンドボール協会

「がんばれハンドボール10万人会」サポート会規約（案）

第１条（目　的）

財団法人日本ハンドボール協会サポート会（以下本会という）は、財団法人日本ハンドボール協会・都道府県ハンドボール協会を財政支援し、もってハンドホール競技の普及発展を支探することを目的とする。

第２条（会　員）

1、ハンドボール競技の普及・発展を支援する目的に賛同し、本会に入会を申し込まれた方を会員とする。

2、会員としての権利は、財団法人日本ハンドボール協会・都道府県ハンドボール協会に入会を申し込み、受理されたときに成立する。

3、会員は、名誉会員、特別会員、グランド会員、ファミリー会員、ジュニア会員、グループ会員、フレンド会員の７種別とし、それぞれの会員種別に応じて特典を受けること出来る。

第３条（会員期間）

1、会員としての期間は１カ年とする。年会費を納入した月から起算して１カ年とする。年会費未納者はフレンド会員とし、３カ年間登録される。

2、会員は、月会員制度とし１カ年を経過する２カ月前より更新手続きを行なう。会員は、更新とともに年会費を納入する。

3、自動更新を希望する会員は、年会費の納入を以て更新とし、第７条に定める他か会員に申し出のないときは、自動的に更新扱いとする。

第４条（年会費）

1、会員は、次に定める年会費を納入する。

名誉会員	寄付とする
特別会員	50,000円
グランド会員	10,000円
ファミリー会員	3,000円
グループ会員	3,000円
ジュニア会員	1,000円
フレンド会員	

2、年会費は、郵便振替により会員が納入する。

3、金融機関からの口座自動振込みを希望する会員は、あらかじめ事務局に申請する。

4、支払済の年会費は、退会を理由に返却することは出来ません。

5、継続して会員登録する場合は、会員期間が終了する２カ月前更新手続きをする。

第５条（会　計）

1、会計年度は、毎年４月１日より３月31日までとする。

2、会計決算は、財団法人日本ハンドボール協会が管理・報告する。

第６条（会員番号）

会員は、財団法人日本ハンドボール協会の所定の方法により会員番号を付与する。

第７条（特　典）

会員は、入会した種別により別表（サポート会員募集案内）に定める特典を受ける。

第８条（退　会）

退会を希望する会員は、所定の様式により退会届けを財団法人日本ハンドボール協会に提出する。フレンド会員は、３カ年の年会費の納入がない場合退会とする。

第９条（届け事項の変更）

1、会員の届けた事項に変更が生じたときは、財団法人日本ハンドボール協会事務局に届け出る。

2、会員からの届け出がないため、通知、送付書類が延着・未着になった場合、本会は責任を負いません。

第10条（規約の変更、承認）

本会の規約の変更は、財団法人日本ハンドボール協会の決議により発議し、その変更内容を会員に通知送付したときから、１カ月以内に会員総数の過半数の異議申し立てがなければ、承認されたものとみなす。

付　則

この規約は、平成11年４月１日より施行。

この規約は、平成12年４月１日に一部改正。

この規約は、平成15年○月○日に一部改正。

※会員の承認が得られ次第発効します。



平成14年度11月常務理事会

日　時　平成14年11月9日（土）
10時－12時
場　所　明治神宮会館
出席者　山下副会長、大西専務理事、常務理事9名、監事2名、参事1名

審議事項

1. 平成14年度第2次補正予算承認の件
「第2次補正予算（案）」に基づき内容が説明され原案通り承認された。

2. スポーツ弁当の件
マーケティング委員会にスポーツ弁当部会を発足させ、各ブロック担当委員を設置し、全国展開を進めていくことが説明、更に、発注マニュアル、注文フローについても説明され、承認された。

3. 競技者資格規程
従来の契約選手、非契約選手の他に、来年からプロ契約選手のカテゴリーを加えたい。JOCの肖像権問題、国体出場資格問題等を含めて定義を明確にして、12月度常務理事会に提出する。

4. 2003ジャパンカップ開催（男子のみ）
国際大会開催は承認され、招待チームはエジプト、サーキット方式ではなく東京地区での2～3試合とする。

5. 女子日本代表チーム監督問題について
ナショナルチーム監督続投、コーチの見直し、マネージャー新設が承認された。

6. プロジェクト21
具体策を早急に策定し、改めて提案する。

7. 東アジア連盟について
役員推薦名薄が紹介され、案通り承認された。事務担当は栗山雅倫。

顧　問	渡逸佳英
副会長	山下　泉
評議員	市原則之
PRC	後藤　登
CCM	笹倉清則
COC	江成元伸
M　C	坂本静男

8. がんばれ10万人会サポート会
「サポート会受付作業日程変更について」、提案通り承認された。

9. その他
アテネ予選推進計画(案)、大会組織図、職務一覧（案）、開催要綱（案）を説明、了承された。

報告事項

1. 全日本総合選手権の参加チーム
2. 国体報告
3. アジア大会結果報告
4. 奨学生候補の件
平成15年度は該当者なし。
5. 日本リーグ
6. 理事長会報告
7. その他
①大会システム整備中期計画の概要が報告された。
②平成14年度マスコミ解説者
③第17回男子世界学生選手権大会の参加スタッフ・選手が報告された。

平成14年度12月常務理事会

日　時　平成14年12月14日（土）
9時－13時
場　所　枇杷島スポーツセンター会議室
出席者　山下副会長、大西専務理事、常務理事9名、理事1名、監事2名

審議事項

1. アテネオリンピックアジア予選協賛金の件
提起案に修正を加えて承認。開局はオフィシャルスポンサー、協賛スポンサーの選定を急ぎ、実行委員会を作って進めていく。

2. 競技者資格規程
「財団法人日本ハンドボール協会競技者資格規程（案）が示されたが、さらに詰めて、1月度常務理事会に再提出、新年度からの適用を目指す。

3. 平成15年度 toto 助成金申請の件
「平成15年度 toto スポーツ振興くじ助成要望案」により、J級指導員養成、コーチシンポジュウム、中学生クラブ大会、調査研究、ホームページ作成、機関誌発行、ドーピング検査、NTSで申請することが承認された。

4. マーケティング事業について
「マーケティング事業計画」が示され、計画を承認し、全員で推進して行くことになった。NEW 10万人会については地方協会に登録手続きもお願いする。

5. 普及プログラム
「ハンドボール普及プログラム（案）開かれたハンドボール社会を目指して」が示され、承認された。

6. ナショナルチームスタッフ
ナショナルチーム男子監督については神戸アテネ予選までの続投が承認された。

7.「10万人会」サポート会員について
サポート会員事業推進案を改めて提案することになった。

8. スポーツコートの件
スポーツ・コート使用に関するアンケート調査を次回常務理事会までにまとめ、審議する。

報告事項

1. 平成15年1月18日、19日センターテストに伴い、1月度常務理事会は1月11日に繰り上げる。
2. 全日本総合エントリーの件
選手の試合エントリーは14名とする。
3. IHF総会報告

平成14年度1月常務理事会

日　時　平成15年1月11日（土）
11時－16時
場　所　東京体育館　第4研修室
出席者　山下副会長、大西専務理事、常務理事9名、理事1名、監事2名、参事2名

山下副会長より新年の挨拶。アテネ予選へ向けて日本協会の総力を結集、成功させるために最大限の努力をしようとの呼びかけ。現実問題としては経済状況が厳しくなるばかりなので、マーケティング委員会や10万人会などの重要性は益す。

審議事項

1. 平成15年度事業計画（案）
職務分掌見直しの提案。強化で担当している範囲が広すぎないかという意見。新設のマーケティング委員会について、新年度には専任の（常務）理事をおいて

も良いのではないかとの提案。

各事業別来年度事業計画（案）の説明並びに審議等は下記の通り。

1－1. 指導・普及

少年チームの強化に重点。従って中学校大会（現在は年２回のみ）の増強、各都道府県協会との連繋強化など。またＮＴＳとの円滑かつ強力な連繋が再度強調された。

1－2. 競技運営

神戸／アテネ予選の成功を第一目標とする。年令別大会の実施、データ管理の通年徹底、大会運営のマニュアル作成などが目標。登録については柔軟性を持たせること、また二重登録も可能にしてはどうか、登録は１箇所にして複数大会参加を可能にしてはどうかなども、検討事項として出された。

1－3. 国際

アジアにおける国際関係の正常化とその体制構築、ネットワーク化を重点とする。日・中・韓でまず動き出す予定。

1－4. 審判

審判130名の資質向上、規則運用の精度向上、評価活動が３つの柱。ＩＨＦ発行のＱ＆Ａを翻訳して各都道府県へ配布。

1－5. 強化

アテネオリンピック出場権獲得を軸として活動する。強化におけるアジアの正常化とは即ち韓国を圧倒することであり、情報収集・分析を強化する。

メディカルサポートについて、最近怪我のケースが多く見られるが、ドクターとトレーナーの支援体制の検討。

男子『p』について、３年目でもあり再考の時期と考えられる。

1－6. 機関誌

雑誌媒体としての特性を生かしインターネットと共存。来年度はtotoの支援を受けることが決定済み。

1－7. 企画・広報

企画は単独ではなく全体を見てやっていくことが必要。人的役割分担を明確にし、内部的な事業と外部的な事業の分離が必要。マーケティング委員会への支援体制を作る必要性。インターネット事業の外注について、人材・財源・内容間のバランスも考慮しなが検討。

1－8. 財務・会計

経済低迷の中、財源が逼迫していることは明らか。少子化を控え、厳しさが増すことが予想される。totoからの補助金が来年度はあるにしても自助努力は必要。

神戸／アテネ予選の協賛金の実現に努力する。

1－9. 日本リーグ

経済不振の中で、企業がチームを持つことの価値観が変わってきている。ナショナルチームの支柱となっていることに変わりはないが、短／中期案として第28回、第29回（来年・再来年度）のやり方を変える必要があるかもしれない。

普及活動との連繋を重要視、小中学校大会に対し日本リーグとしてどのような支援が出来るか、連繋が持てるか、考える。

1－10. 総務

マーケティングとの連繋の必要性、及びそれに伴う環境・業務の整備。各種大会会場に一般企業の出店について検討する。

1－11.『10万人会』サポート会

マーケティングとの連繋の必要性と共に、調整し整合させて新しい10万人会、“ニュー10万人会”を構築する。

以上、同議案は承認された。

2. 平成15年度事業予算（案）

15年度収入は努力目標も含めた予算（案）であること。スポンサーのときめきドットコムも、各大会のお弁当注文で日本協会は鋭意還元を図ってきたが、来年度の協賛継続が危ぶまれており、２月には結論がでる予定。

特別会計に繰入れて強化に使う予定のグッズ販売について予算を見直し、修正を検討して再提出する。

削減は手始めとして海外関係（海外遠征､海外拠点､外人コーチなど）を減らす。

同議案は強化・総務で見直し、修正案を次回常務理事会に再提出する。

3. グッズ販売について

日本協会の赤いシンボルマークやMUSASABIなどの商標または意匠登録は、他に真似するところも考えにくく当面保留とすることに合意。

販売方法についてはさらに検討。第１回分発注のための資金は条件付きで了承された。

4.『がんばれハンドボール10万人会』サポート会推進事業

基本方針見直し中。案として新たにジュニア会員、グループ会員、フレンド会員のカテゴリー。規約改正を機に都道府県協会への還元率アップなど。またマーケティングと連繋させ案内を活用する。アンケートも実施中で新案は２月理事会に諮る。

5. プロ規定について

ＩＨＦが国際移籍のプロに対応しているように、日本協会も国内移籍に対応するべく検討し、２月理事会に諮る。

6. 国体ブロック割当て

承認された。登録締切は９月末予定。

7. フレデリック・ヴォルの件

今年６月30日までホンダとの契約があり、その後は９月末アテネ予選まで日本協会所属（その後は未定）となっている旨承認。

8. デサントの件

オフィシャルサプライヤーの契約を新年度から解除したいとデサントから申し出。全てをアシックスに頼るのも負担が大き過ぎるので他社をあたる。

9. スポーツコートの件

床材としてタラフレックスに慣れているが、古くなってきたのでスポーツコートに代えてはどうか提案されたが、実業団チーム等の意見も聞くように審議継続。

10. アテネ予選

１月16日に準備委員会、24日に現地事務所開き及び第１回実行委員会。正式名称は『アテネオリンピックハンドボール競技アジア予選兵庫・神戸事務局』とする。

報告事項

1. 日本リーグ

プレーオフのスケジュール並びに各種提案。

2.toto について

各事業とも助成金受取りの会計担当を決めて、書類の対応がすぐ出来るようにとの専務理事からのアドバイスがあった。

3. 読売新聞社日本スポーツ賞優秀団体の件

富山県立氷見高校男子チームが受賞。

4. 国際大会の件

“ジャパンカップ”（仮称）

７月17日（横浜）、19日（名古屋）、20日（福井）　エジプトが参加確認

ヒロシマ国際

７月24日－27日（広島）

チャイニーズタイペイが参加確認

5. JOCジュニアカップ

来年度からは参加が４チーム増えて16チームになる。今年も優秀選手が多かったがオールラウンドプレーヤー、身長180cm以上が１チーム２名以上、左利きなどにも重点をおく。ＮＴＳと連繋させての講習会も非常に重要。

6. 審判合同会議（斎藤）

“自陣に戻る選手に対する妨害”について検討中。２月常務理事会で報告。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」２月入会・継続会員

【山形】五島訓二

【群馬】関口晴久、永井栄子

【神奈川】田村修治

【石川】寺垣俊彦

【愛知】鈴木信好、神谷美紀子、山田康弘

【三重】栗本士郎、池辺健二、上村宗男、荒木誠司

【京都】川原崎雅彦

【愛媛】田中侑也、中村　晶

【4月の行事予定】

［大会］

なし

［会議］

常務理事（12日）

【お　知　ら　せ】

本号、事業計画にありますように、平成15年度より機関誌の発行は、年10回発行となります。それに伴い、１・２月、６・７月が合併号となります。また、従来の32ページが24ページになります。速報性のある大会速報はインターネットでご覧ください。機関誌においては、記録のみを掲載します。

機関誌では、各種委員会、連盟、地方協会等からの情報伝達、ハンドボール競技の情報、日本協会の動きを詳細にお伝えする方向で努力いたします。

（機関誌編集委員会）

HAND BALL CONTENTS Apr

（登録チームの購読料は登録料に含む）

2002コートの主役



PKCH3-AD　　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革



PKCH2-AD　　　¥4,500 パ

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革



MIKASA
株式会社 ミカサ

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四三九号
昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可
平成十五年三月二十六日印刷
平成十五年四月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替、〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円